

# 桜並木への工事影響の低減（1/3）

- ◇武蔵水路沿線には約1000本もの桜並木があります。この桜は『行田さくらロータリークラブ』をはじめとする地域の皆様方によって植樹されたものです。
- ◇水路改築工事においては、県内の樹木医から指導を得ながら、桜の樹勢調査の実施と工事への工夫を行い、桜並木への影響を極力低減していきます。
- ◇水路が新しく生まれ変わった際にも、今と変わらない憩いの場を提供できるよう努力していきます。



※樹齢は40～50年と推定されます

# 桜並木への工事影響の低減 (2/3)

◇樹木の専門家（樹木医）による踏査を実施しました

一見、見事な花を付けている桜であっても、樹勢の劣る木が複数確認されている箇所（●印）もあることが分かりました。



樹木医による現地視察



樹木医による現地視察



樹勢が落ちている例  
(腐朽菌の侵入)

【腐朽菌】木材を腐食する能力のある菌類。桜は腐朽菌に対する抵抗力の弱い樹種で、わずかな傷口から侵入した腐朽菌が木全体を枯死させることもある。



樹勢が落ちている例  
(幹の空洞化)

# 桜並木への工事影響の低減 (3/3)

水路改築工事においては、一部桜の木の伐採、枝や根の切断を行うことがあり、桜に与える影響を確認・低減するために、次のような取り組みを行っていきます。

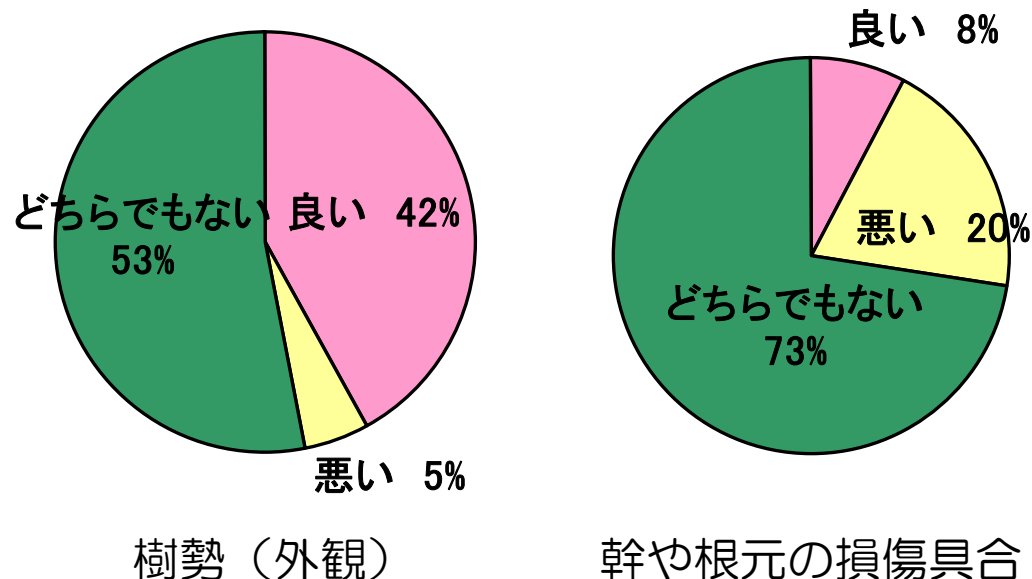
## ◇樹勢調査を実施

現状の樹勢を確認するため、桜の木1本ごと調査を実施しています。調査結果（速報）を下図に示します。今後は、調査結果をデータベースとして、工事前後の樹勢の変化に注視していきます。

## ◇試験施工と工事への適用

工事により枝や根を切断する可能性があります。樹木医の指導の下、切断面からの腐朽菌の侵入を防ぐ工法を検討して工事へ適用していきます。

### 桜の調査結果（速報）



武蔵水路沿線の桜並木は、一見、花付きや樹形等から健全な桜並木に見えます。

しかし、専門的な調査を行ったところ、樹勢は半分以上が普通あるいは普通より悪く、幹や根元の損傷具合は全体の1/5に問題を抱えている状態でした。

調査期間 平成22年9月13日～10月6日  
調査本数 1,030本